



渡邊先生インタビュー

今年度で退職される西洋史コース担当の渡邊伸先生にインタビューをしました。
(高尾・松田・渡部)

渡邊先生が西洋史、特に現在の研究分野を選ばれた経緯について教えてください

私の歴史への関わりは、初めて絵本でない本を買ってもらったのが『ほら吹き男爵の冒険』で、そこから『プルターク英雄伝』など児童向けの歴史を読みふけて歴史好きにという流れです。ターニングポイントは小6の時、同級生に「歴史なんかやって何になるの?」と言われたことです。当時の私は孔子の「温故知新」しか言い返すことができなかつたのですが、後にルネサンスの人々は「温故知新」を実践したのだと気づき、ルネサンス研究を志しました。しかし、北方ルネサンスを調べると、宗教改革を扱わざるをえなくなったという成り行きです。

語学は外国史を研究する上で避けては通れませんが、これまで語学で悩まされたことはありますか?

語学の難しさには際限がありません。読む・書く・聞く・話すではそれぞれ別の能力が要りますし、何を読み、書き、話すかでレベルが変わります。美辞麗句や皮肉、婉曲な「いけず」、それに方言も含めれば、およそその困難たるや想像はつくでしょう。結局は人間を理解する難しさなので、まずは必要とするレベルを設定して、その修得を目標にしてください。

一般職に就職する多くの歴史学科生にとって、歴史を学ぶことがどう生かされると思いますか?

歴史研究の手続きや作業は社会にも必須であるはずですが、例えば何かを提案するとき、既存の評価を疑い、確かな根拠をもとに新しいアイデアを発表する。それが人々に受け入れられればそのアイデアが新しい「常識=通説」になっていく。それは裁判の進め方と同じ思考作業です。膨大な情報があふれる中、情報の真偽判断や処理能力の向上が不可欠になっている現代社会において、既存の価値観を見つめ直し、アップデートしていく歴史学の方法は今後ますます大切になっていくと思います。

歴史学（特に外国史）をこれから学んでいく学生へメッセージをお願いします

歴史を研究するのは歴史が好きだからで良いと思います。ただ、なんのためにその研究をやるのか、とくに古い時代、ましてや外国のことを調べるのはなんのためなのか。それを自覚し、説明できるようにしておくことは必要でしょう。私自身も説明を試み続けてきましたが、答えは一つではありません。しかし、常にそのことを意識し続けることによって自分の考えを客観的に見ることができます。言い訳でも正当化でもいいですから、研究の目的をつねに問いかけてみてください。



▲インタビューの様子

学科旅行 IN 長野

今年は9月18日・19日に長野県への学科旅行が行われ、善光寺、諏訪大社、松本城を訪れました。

始めに訪れた善光寺では、東日本最大級の国宝木造建築である本堂をはじめとするたくさんのお堂に参拝しました。善光寺史料館には2010年にダライ・ラマ14世が訪れた際に作られた砂曼荼羅が保存されておりその独創的で色鮮やかなデザインに目を奪われました。善光寺には39の宿坊があり、我々はそのうちの常智院と尊勝院に泊まり精進料理を振舞っていただきました。2日目の朝早くには善光寺を護持運営する天台宗と浄土宗が行うお朝時に参加しました。ご本尊が御開帳された静かな本堂内に僧侶の読経と念仏が響き渡る空間は、荘厳たる様子で心が洗われるようでした。



▲宿坊の御住職による案内



▲諏訪大社鳥居

次に諏訪大社へと向かいました。諏訪大社は諏訪大神を祭る神社の中でも最古のものであり、四つの社に分かれています。私たちがお参りさせていただいたのはその中の本宮でした。正面にある大きな鳥居には崇高さと迫力が感じられ、周りの木々が不思議と神々しさを演出していました。境内には伝説の横綱である雷電の像や、土俵があり、相撲と所縁のある場所であることを感じさせました。



学科旅行の最後には松本城をガイドの方に案内していただきました。松本城は深志城を前身とした城です。天守ができた年代についてはさまざまな説がありますが、松本市は1593年説を推しています。松本城は山城の多かった桃山時代において珍しい平城です。また、松本城ならではの特徴は、石垣の中に16本の丸太が特殊な組み方がされていることです。この組方によって天守の重みを支えることができます。案内していただいた後、各自で天守を登りました。天守からの眺めは山々が悠然と広がっていて、とても感動しました。(小笠原・佐藤・渡辺)



▲松本城

今号は岡田・安田(校正)、芝田・若山・一原(編集)が担当しました。

デザ研について~About Us~

文化遺産デザイン研修は歴史学科の課外活動です。歴史や文化遺産に関する内容を自分たちで調査し、その成果を適切に表現・発信することを目的とし、インプットからアウトプットまでをデザインします。また、活動を通じてメンバー自身の成長とキャリアデザインの機会にもなっています。

作成：京都府立大学文学部歴史学科文化遺産デザイン研修

発行：〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

京都府立大学文学部歴史学科



@designkenshu



dezaken_rekishi